

県民幸福量の指標化に係る調査

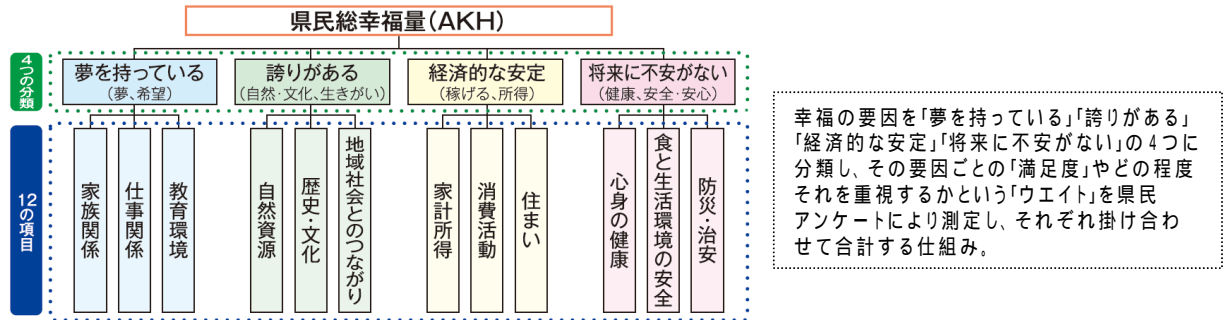
(主なポイント)

調査の目的・内容

蒲島県政の基本理念である「県民幸福量の最大化」の考え方を更に県民と共有し、効果的な施策につなげるため、平成22年度から県民幸福量を測る指標の研究に取り組み、総合指標「県民総幸福量（AKH：Aggregate Kumamoto Happiness）」の作成を進めている。

24年度は、23年度の調査研究結果を踏まえ、更なる精度の向上や具体化に向けて、同指標の算出等に必要データ収集、同分析等を行うことを目的に調査を実施。

(AKHの構成・算出の仕組み)



県民アンケート（「県民の幸福に関する意識調査」）に基づくAKHの算出

AKHは、幸福要因に対する県民の「満足度」や「ウエイト」という主観をアンケートで捉えて指標化するため、精度の高いアンケートを実施することが肝要。

以下の観点から23年度アンケートの内容を見直して実施。

十分なデータ数を確保すること 調査対象者を倍増（1,500名 3,000名）
誤解を生じない的確な表現で質問すること（これに伴い設問数も削減：39問 15問）

対象：県内在住の20歳以上の男女3,000人（無作為抽出）
期間：平成24年11月9日～11月23日
回収数：1,517件（回収率：50.6%）
設問数：計15問

(AKHの算出)

$$\begin{aligned} \text{AKH} &= \text{「夢を持っている」} \quad [\text{満足度計} (10.4) \times \text{ウエイト} (2.66)] \\ &+ \text{「誇りがある」} \quad [\text{満足度計} (11.8) \times \text{ウエイト} (2.02)] \\ &+ \text{「経済的な安定」} \quad [\text{満足度計} (9.6) \times \text{ウエイト} (2.84)] \\ &+ \text{「将来に不安がない」} [\text{満足度計} (9.8) \times \text{ウエイト} (2.48)] \\ &= \underline{103.1} \quad \text{最高が150となるため、100を最高に換算すると} \underline{68.7} \end{aligned}$$

【参考：H23結果】

対象：県内在住の20歳以上の男女1,500人
期間：平成23年12月7日～12月22日
回収数：715件（回収率：47.7%）
設問数：計39問

$$\begin{aligned} \text{AKH} &= \text{「夢を持っている」} \quad [\text{満足度計} (32.0) \times \text{ウエイト} (2.63)] \\ &+ \text{「誇りがある」} \quad [\text{満足度計} (34.0) \times \text{ウエイト} (2.11)] \\ &+ \text{「経済的な安定」} \quad [\text{満足度計} (28.7) \times \text{ウエイト} (2.82)] \\ &+ \text{「将来に不安がない」} [\text{満足度計} (31.1) \times \text{ウエイト} (2.44)] \\ &= \underline{312.7} \quad \text{最高が450となるため、100を最高に換算すると} \underline{69.5} \end{aligned}$$

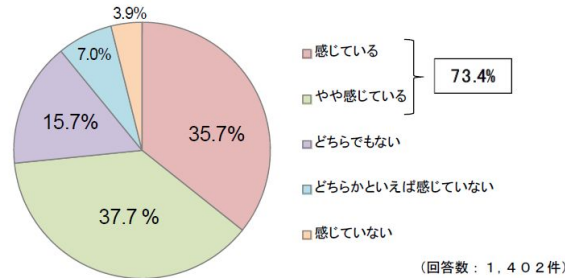
アンケートの集計結果

1 全体集計

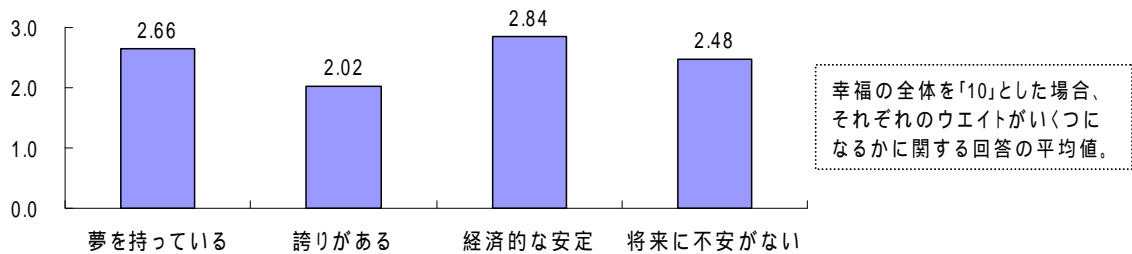
(1) 「直観的な幸福度」について

現在、端的に幸せと感じているかという「直観的な幸福度」を5段階で質問。

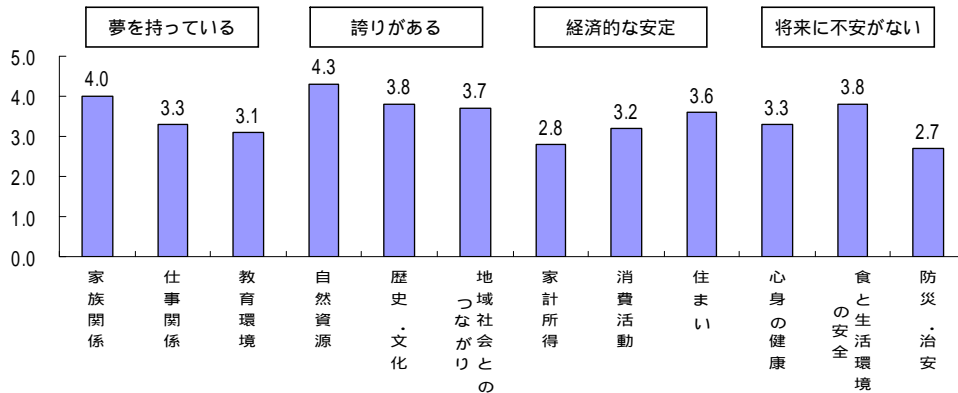
「幸福」だと感じている県民の割合（「感じている」+「やや感じている」）は73.4%。



(2) “4つの分類”のウエイト（平均値）について



(3) “12の項目”に対する満足度（平均値）について



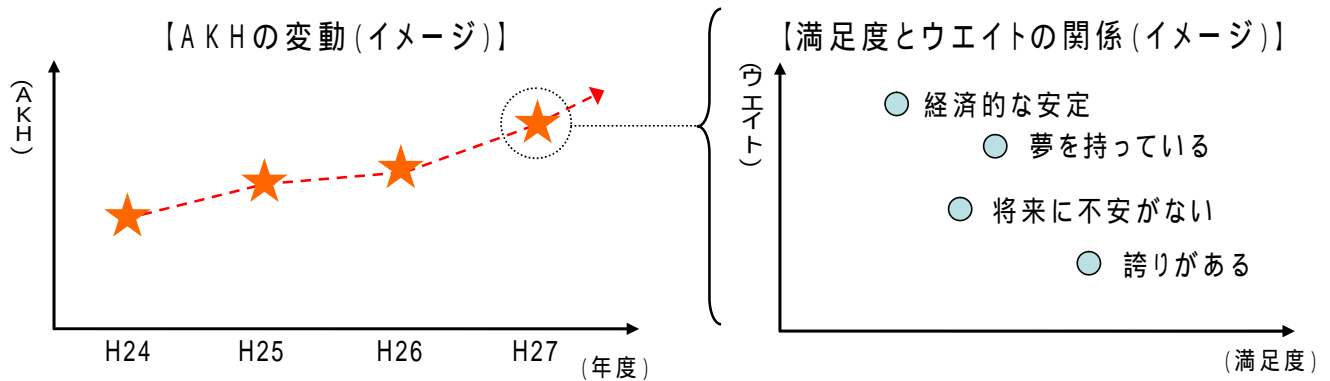
2 クロス集計（まとめ）

属性	「直観的な幸福度」	“4つの分類”のウエイト	“12の項目”に対する満足度
男女別	男性68.9%、女性76.7%で、前年度と同様に女性の方が高い。	差はあまり見られない。	差はあまり見られない。
年代別	各年代とも7割以上が「幸福」だと感じており、特に30歳代は8割以上が感じている。	「経済的な安定」のウエイトが最も高い年代が多い中で、30歳代のみ「夢を持っている」が最も高い。	各分類の中で満足度が最も高い項目は次のとおりでおおよそ共通している。 「夢を持っている」 「家族関係」
地域別	菊池、上益城、熊本の順で高い。	「経済的な安定」のウエイトが最も高い地域が多い中で、阿蘇、上益城は「夢を持っている」が最も高い。	「誇りがある」 「自然関係」 「経済的な安定」 「住まい」 「将来に不安がない」
職業別	公務員、専業主夫・主婦、家族従事者の順で高い。	最もウエイトが高い分類が「夢を持っている」と「経済的な安定」でおおよそ半々となるなど、バラつきあり。	「食と生活環境の安全」 しかし、2位・3位の項目については、属性ごとにバラつきが生じている。

地域別・職業別に関しては、有効回答数が少ない区分があるため、一定の誤差が含まれる点に留意する必要がある。

1 政策評価への活用

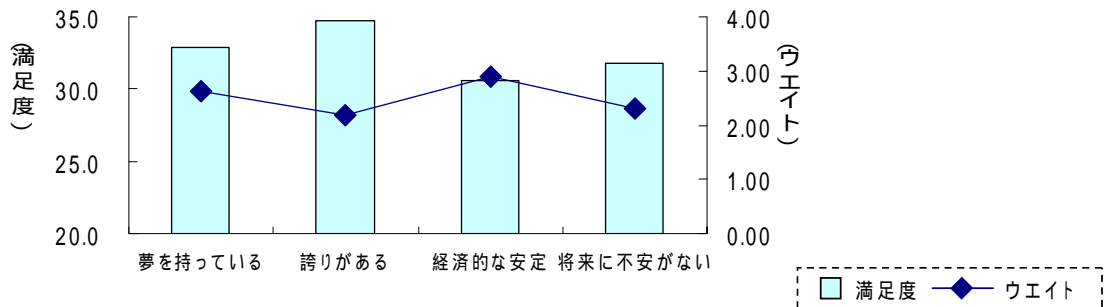
毎年度AKHを算出し、その増減を測ることで、県民幸福量の最大化に向かって進んでいるかどうかを確認。



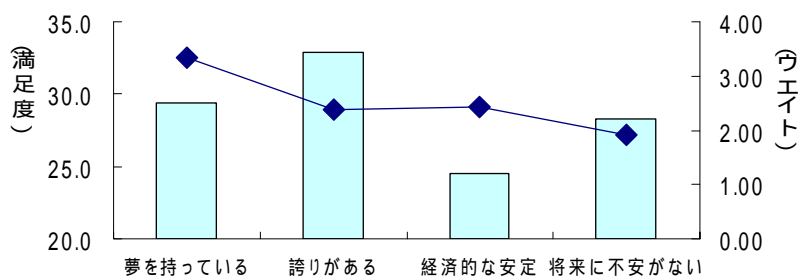
2 きめ細やかな政策立案への活用

地域別や年齢階層別などで見て、どの幸福要因が重要視されているのか、どの満足度が低いのかなどといった幸福の姿を捉える。

【A地域(イメージ)】



【B地域(イメージ)】



3 住民参加型の政策形成への活用

住民と行政が一緒になって、地域ごとの幸せを追求し、実感していくための有効なツール。

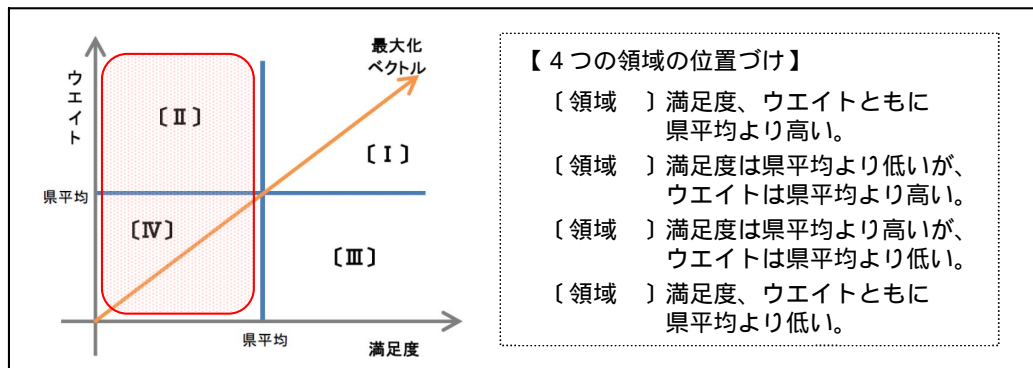


地域別の施策の方向性の提案（試行）

県内11地域について、“4つの分類”ごとにAKHを構成する「満足度」と「ウエイト」をプロットし、県平均との対比により地域ごとの特徴を視覚的に捉える。

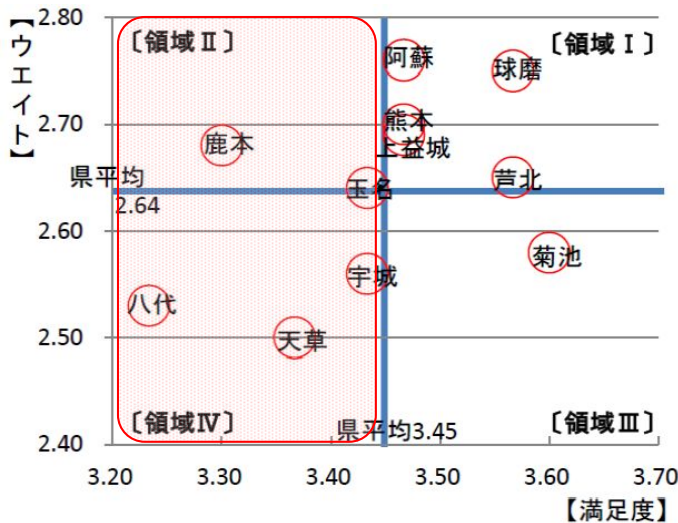
AKHを高めていくためには、それぞれの地域の満足度とウエイトの両方を上げていくことが基本となる。しかし、ウエイトは“4つの分類”の相対的な関係を表すものであり、一つが上がれば他の一つが下がることになるため、施策の方向性としては満足度を高めていくことが重要と考えられる。

そこで、ここでは、“4つの分類”ごとに満足度が県平均より低い地域、すなわち下図の領域Ⅱと領域Ⅳに位置する地域をターゲットに、同分類の中で最も満足度が低い項目を見出すこととし、これにより地域別の施策の方向性が見えてくるものと考えられる。



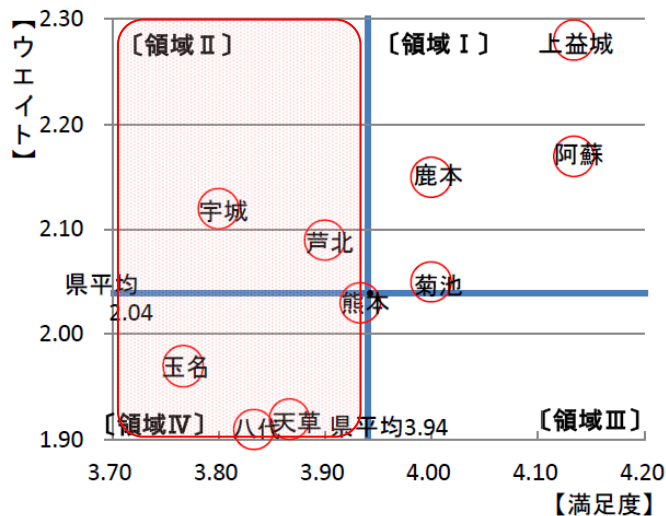
今回の調査では、データ数が不足し、統計上の有意性が確保できていない地域があることを留意する必要がある。

夢を持っている



領域	地域	満足度が最も低い項目
領域Ⅳ	鹿本	教育環境
	玉名	
	八代	
	天草	

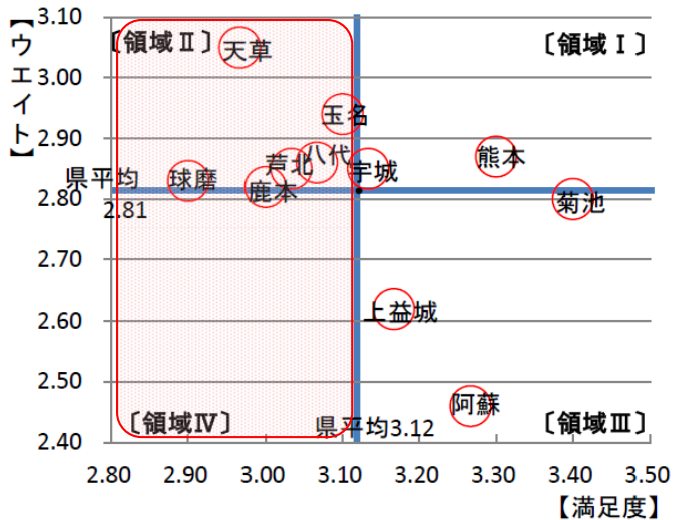
誇りがある



領域	地域	満足度が最も低い項目
領域Ⅳ	宇城	歴史・文化
	芦北	
領域Ⅳ	八代	地域社会とのつながり
	玉名	
	天草	

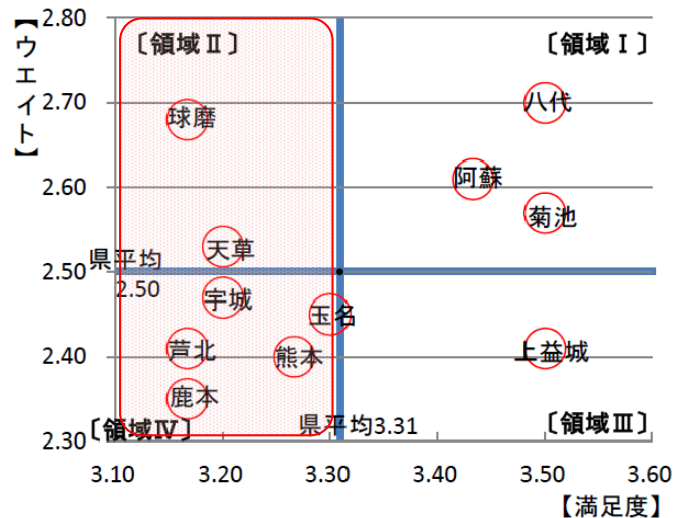
地域別の施策の方向性の提案（試行）

経済的な安定



領域	地域	満足度が最も低い項目
領域II	球磨	家計所得
	天草	
	鹿本	
	芦北	
	八代	
	玉名	

将来に不安がない



領域	地域	満足度が最も低い項目
領域II	球磨	防災・治安
	天草	
	鹿本	
	芦北	
	宇城	
	熊本	
玉名		

上記の例のように、AKHの算出プロセスにおいて把握する、各幸福要因に対する県民の満足度とウエイトという情報を属性や地域特性等に応じた的確に抽出し、整理することで、「きめ細やかな政策立案」につなげていくことができると考えられる。